

# 2020 文化で滋賀を元気に!賞



## 大賞 至福の音楽空間を求め文化賞

フィガロホール 多田 純夫さん・ユウ子さん夫妻 / 大津市

(受賞者・団体/主な活動地域 以下同じ)

### 【講評】

「身近に楽しめるホールを大津に!」。クラシックを愛する夫婦が夢を実現させ、世界の一線で活躍している音楽家達に「このフィガロホールで気に入った曲を演奏したい」と、評価される音楽ホールに築き上げた。

約30年前、フルート奏者として活躍していたユウ子さんは、ヨーロッパへの演奏旅行で小さな街にも音楽が人々の暮らしに溶け込んでいる環境に触れ、「いつか故郷の大津もそうなって欲しい」と夢を育ませた。また、学生の頃から吹奏楽部のトランペット奏者として音楽に親しんできた純夫さんも、「音楽仲間達とずっと身近に集まれる場所があれば」と願っていた。

音楽仲間と話し合ううち、自宅の新築を機に音楽ホールのある家建てようと決意。木材を贅沢に使った温かみのあるホールを目指した。大規模ホールのように音が届きにくいこともなく、演奏に適した空間で演奏家も自身の奏でる音色を楽しみながら身近に観客を感じることができるという。

企画と運営は純夫さんが手がけ、ユウ子さんがホールの管理を担当している。音楽仲間からの紹介をはじめ、ホールの評判を聞きつけた音楽関係者から「ぜひ演奏したい」との依頼は、今では県内にとどまらず、東京、国内外にまで広がりをみせている。多田さん夫婦の温かい人柄と、宿泊もできる控室は、「上等なホテルより、このホールで寝泊まりしたい」と言う演奏家や、コンサートも無いのに泊まっていくほど、フィガロホールの大ファンという音楽家もいるという微笑ましいエピソードも。

県内のみならず、多くの人と協力しながら、これからももっと音楽家を支援できるような体制作りができればと、多田さん夫婦。二人三脚で企画、運営を20年以上、上質で公益性の高い活動を継続してきた音楽への情熱と、名だたる音楽家を育成、輩出してこられた地域文化への貢献を称えたい。

### 受賞団体について

フィガロホールは、クラシックの大ファンである歯科医師の多田純夫さんと元フルート奏者のユウ子さん夫妻が新築した大津市中庄の自宅に隣接して1998年にオープンした。ホール名は、モーツァルトの名曲「フィガロの結婚」に由来する。

自宅南側半分を3階部分まで吹き抜けに、高さ約7メートル、広さ約120㎡、定員約100人のホールを中心に、1階のロビーには飲み物などで来場者をもてなす「ホワイエ」を、2階には出演者が来場者と交流できるサロンを、3階には録音室や出演者の控室などを設けている。

クラシック好きならではの感覚からゆったりとした座席で音楽を楽しんでもらえるよう心地の良い椅子を選んだ。バイオリンの背板に使われるカーリーメイプル材を舞台ステージの床部分に使うなどし、音響にこだわり、プロの音楽家からは演奏録音にも最適と太鼓判をもらっている。

ホール開館と同時に、レパーハーブ(小型のハーブ)の普及にも力を入れ、2007年同ホールを拠点とする「フィガロハーブアンサンブル」も発足。病院、養護学校、高齢者福祉施設などでの演奏にも精力的だ。

公演は室内楽をはじめ、ピアノ、ギター、声楽、古楽、ジャズなど幅広い分野で展開。滋賀音楽振興会と協力した「滋賀県新人演奏会受賞者によるメモリアル・リサイタル」をはじめ、地元ゆかりの若手演奏者の人材育成にも力を入れている。また、貸館として100席という規模はアマチュア、子どもの音楽発表会などにも使いやすく、地元の音楽愛好家たちにも長く愛されている。

### 表彰概要

- 表彰の種類 (1)各賞 文化で滋賀を明るく元気にし、活力あふれる地域社会の実現に貢献している団体または個人(若干名)  
(2)大賞 (1)の受賞候補のうち最も評価された団体または個人(1名)  
(3)各賞の名称は、推薦者からの提案に基づき決定
- 表彰式 令和3年2月13日(土)16:15~ びわ湖ホール大ホール ※受賞者には賞状と賞金(大賞10万円、各賞3万円)を贈呈。
- 募集期間 令和2年8月1日(土)~令和2年10月31日(土)
- 候補者 募集期間内に推薦書を文化・経済フォーラム滋賀に提出。自薦、他薦は問わない。
- 選考 令和2年12月10日(木) 選考委員会で審査を行い、大賞・各賞を選考。  
選考委員 饗場 貴子[元・大津青年会議所理事長]、秋村 洋[㈱プラネットリビング代表取締役]、南 千勢子[ピアニスト]、山中 隆[(公財)びわ湖芸術文化財団理事長]、山本 勝義[(株)ビルディング・コンサルタントワイズ代表取締役]

## 神社仏閣から地域の歴史をひもとく文化賞

近江八幡市郷土史会  
会長 浅岡 徹夫さん / 近江八幡市



郷土の歴史に関心を持つ人々たちによる「郷土史会」が「近江八幡市郷土史会」と名称を変えて活動を展開して40年になる。点在する神社に足を運んで聞き取った記録を本にまとめ、地域住民のコミュニティの活性化にも役立つ活動と注目を集めている。

同会の仲間は約60人。市内の史跡や文化財を探訪、親睦を深めながら活動を続けてきた。郷土の人物の功績や社寺などの由緒ある建築物について知識を深めていく過程で、時代の流れとともに誰にも知られることなく消えつつある貴重な文化や建築物の多さを肌で感じ、本にまとめる必要性を感じたという。

刊行された「近江八幡 安土の神社 くらしと祈り」はA5判254ページの力作。市内80か所もあると言われる神社に焦点を当て、学区を10区ごとに分け、全ての神社を網羅した。各社の宮司、地元の郷土史研究家、集落の住民らから神社に伝わる祭神、祭礼や建物、由緒、逸話などの聞き取りを行った。それぞれの村の特色に応じた一社一社の特徴や各在所の神社が人々をつなぐ役割を果たしていたことなどが詳細にまとめられ、4年半に渡る大作業となった。全国から参拝者が訪れる大きな神社から町内の小さな神社までそれぞれ会員らが足を運んで調べ上げた地域の歴史の集大成で写真も多く貴重な資料でもある。

「達成できたのは同会の仲間の結束による大きな力」、と会長の浅岡徹夫さんは言う。これからも様々なテーマを探りながら記録として残り、郷土の歴史を次世代へつないでいこうとする活動に期待が寄せられている。

## 笑顔・アート・ひと。集いにぎわう町の玄関文化賞

愛知川駅コミュニティハウスるーぶる愛知川  
愛荘町観光協会 代表理事 面澤 基治さん / 愛知郡愛荘町



展示されることで若手の登竜門にもなって欲しいーそんな期待を寄せて近江鉄道愛知川駅のギャラリーが質の高いアートの場として話題になり、県内外から多くの人々を呼び込んでいる。

2000年3月に近江鉄道愛知川駅の駅舎は「愛知川駅コミュニティハウス『るーぶる愛知川』」に改築された。江戸時代の中山道宿場町として賑わった「愛知川宿」をイメージした駅舎には観光案内所と地元の特産品の展示販売所、そしてギャラリーが設けられた。いつでも誰でも気軽に立ち寄り、多くの人に親しんでもらえるよう名称を広く公募。「見る」「遊ぶ」「食べる」の最後の文字を並べた「るーぶる愛知川」が選ばれ、ギャラリーを連想してもらえるよう名付けた。

各展覧会の日時などを案内するポストカードの制作や会場の費用は愛荘町観光協会が負担。ギャラリーは入場無料。年末年始を除き年中無休、午前8時から午後5時まで開けている。長期休館となったのは新型コロナウイルスの自粛中のみで、広さ33㎡のギャラリーには平面、立体、工芸など様々なジャンルの作品を展示している。

地元の美術高校教諭や県内外の作家、愛荘町観光協会らで組織された企画委員会が、ギャラリーに適った作品を選び、今年1月で292回目を迎えた。「日本を代表する作家の作品が並ぶこともあり、一味違った憩いの場に成長しました」と、同観光協会代表理事の面澤基治さん。

長く愛されるようにと上質な芸術を提供し続けている高い志と豊かな地元の魅力を伝え続けてきた功績を称え、これからの活動に期待したい。

## 美しい森を次の世代へ文化賞

山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会  
会長 浅井 正彦さん / 長浜市



森林保全活動グループ「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」の活動は今年で20年になる。淀川水系1400万人の大切な水源である琵琶湖へ水を供給する森のひとつ「奥びわ湖・山門水源の森」の守り役。同会事務局を務める橋本勲さんは「この森で生まれた水は下流にも次世代にもつながっているのです」と話し、会員らは森の保全や再生作業に心地良い汗を流している。

森は滋賀県北部の西浅井町にあり、4万年前に形成されたとされる県内最大の山門湿原を中央に抱く。希少動植物が数多く確認され、林野庁の「水源の森百選」にも選ばれている。

かつては薪炭林として活用されていた森に人が入らなくなり、半世紀以上放置されていたが1996年県が公有化。2001年4月に森の再生と保全を目指す同会が発足し、現在会員は約130人。取り組んでいる活動はブナ林の保全、ササコリの植生保護、防獣対策、除雪、ヒノキ林の間伐、観察会、講演会、地元小中学校への講座など幅広い。最近では森でのジャズライブ、ヨガ、メイプルシロップの元となるカエデの樹液採取などユニークなイベントも。

2018年には大津祭保存会とNPO法人大津祭曳山連盟からの協力要請に応じ、大津祭で使う曳山の車軸などの材料に使われるブナ科の常緑樹・アカガシの育林も手掛ける。曳山の材料に使うには60年~100年かかる壮大な事業だ。森の保全と曳山祭と同会の次世代への継承にもつなげていければとの願いが込められている。地域を超えた繋がりや次世代への継承と広がるこれからの展開にますます注目したい。